

守國御傳記外錄

下
未完

御遺事 第十四回 三月



將軍家此北朝餉進ニ玉ハス近侍ノ位是ヲ憂慮シ、公ニ告奉リ
シカハ、公委シク尋玉ヒシニ、朝カツ時起キ山ノ折ノ菓ナリ、菜ヲ喫
シ玉フ旨問玉ヒ、明日ヨリ六時起キ出湯沐ホ早リ、武技ノ稽古
ヲ為シ玉ヒテ後、カツ時ニ朝餉ヲ食シ玉フヘシ、其以前菓子ノ菜ヲ
食シ玉フハ、宜シカラサル旨言上シ玉ヒ、ソノ如ク為シ玉ヒシカハ、東ノ
朝餉進ニ玉ヒシトシ、
將軍家乗馬ヲ好ミ玉ヒ、日々侍臣ヲ相手トナシ遊戯競ヒ、自タル
其耳ヲ引ル、事ニテ、或日餘リニ強ク引玉ヒシカハ、痛強ク菜ヲ用
ル程ナリシカハ、侍臣加藤虎之助自ラ相馬ヲ願ヒ、乗勝タリ、街東ナリ

中將年家ノ耳ヲ強ク列タリケレ、不與ニ止玉ニ改差和唇差出
サヘキヤト伺ヒニ、世儀ニ不及ト名命アリ、折節 公侍候ニ玉ヒ方
美、負タル北ノ耳ヲ強ク列セ玉フ故、虎之助強ク列奉リテ、陳メ奉
心入ナルハ、天晴健氣ナル北却ト取成シ玉ヒ、將軍家モ納メ玉ヒ
世後耳列ハ山メ玉ヒトソ

西洋決四專ラ遠畧ヲ務ムルヲ聞玉ヒ、江戸ノ藩屏緊要ノ
地、伊豆安房ホノ海岸備禦ノ役與シハアル可ラストテ、兼テ密ニ
建議シ玉フ、有リシカ後上ニ記セル如ク格亭ヲ命セウ、巡見シ玉
ヒ、三洲浦ヲ過玉ヒ、寸向フノ峯ニ大ナル白猿数百ノ群、猿
ヲ從ヒテ、登リ行クヲ見玉ヒテ、銃炮ヤアルト問セウレシニ、道崎ニ

少し後レタリケレ、其處過玉フ、後年侍候ホニ、我其此ハ年壯ナリ
シ故、何心ナリ打田ント思ヒニ、持向後レテ打澤サリシハ天幸ナリ
ケリ、老中タル北カ巡見先ニテ猿ヲ打タリトアラハ、沙汰ノ限ナリ
ト告リ玉フ、カクテ海岸ヲ巡見シ玉フニ、富山間近ク特起シ、手ニ
毛取ク、久遠近ノ爪果絶縁ナルヲ陪送ノ官吏、殿又詠ムルヲ見
玉ヒテ、

殊高キカ、名カメクニ、ニクラフハ、塵ヒチナレヤ、雪ノ富士ノ根
ト呻ミ玉ヒ、何レモ忠貞ノ歌詠ニ見ヘシヲ感歎ニ奉リ又、
此從陪送セル由目附志山漁五郎此忠誠ヲ感賞ノ餘リ、由陰栖
後深慮シ乞シタニ、其使ヲ待セ置キテ、即詠ニ、

浦くノ波ノヨシメヲミテ見ニハ昔ノ雪ノ富士ノ根

ト肩面ニ唇添ヒテ贈リ玉フ

此處見ノ途中春雨ニメヤカニ降リ農民時ヲ得テアラ田打返ス

見玉ヒテ

耕ス

長閑ナル春雨ニ時ヲ得テアラ田打返シタル様イト贈ミ今日

ノ雨ヲ我輩ハ喜ミトハムナリサレハ矢人ノ歡フ処ハ吾人ノ患ナル

処ナリ惟其輕重ヲ計リ本末ヲ考テヨソ深奥モ知ルヘキナリ

只目前ノ榮辱ニ列レ姑息ニ陥ルコソ歎カシケレ

民草ノウレホフ雨ニ時ヲ得テフルキ返ス春ノ小山田

膏沃未タ普カラス民俗未タ改ラヌ困窮今ニ愈難シ爰ニ

至リテハ我輩ノ罪ニムヘキ言ノ筆モナシ

ト皆テ陪送シタル久世丹後守ニ日ノ玉ヲ丹後守此時此處

奉行ニテ望海ノ兩郡代ヲ兼タルユヘ公憂國ノ心切ナルヨリ丹

後守ヲ勸導シ玉ヒシナリ丹後守感悦ノ珍蔵セリソノ

此海防ノ事ニ付キ公ノ遠慮ヲ知ラサル北ハ治安ノ寸ニ当リテ事

ヲ好ミ玉ヲ採ニ議シタリ氏後父代四年ニ至リ魯西近四載

ノ奥ニ致シ同五年長岑ノ来リ迄礼ノ振舞セシカハ世人始

テ公ノ遠慮深湛シ感ニ奉ヒリ

帰路相府川ノ溪所ニ駐リ山ノ親ク見玉ヒシ為ニ步行ニテ

関前ヲ通り玉フ其寸途ニ至リ田に五口ニ関所ノ大木多治

ハシテ其ノ事ハ、將軍吉宗公ノ寸ニ教令有テ、病ニカアルヲ
ハシ之進ヲ憐シ、泣ク以テ、賢明ノ君ノ眷顧ヲ蒙リシハ、トテ、其ノ名シハ
心ト改シトシ

朝鮮人參ノ事ハ、將軍吉宗公ノ寸ニ教令有テ、病ニカアルヲ
示サレシカ、氏習俗久ク、廣東ヲ用井来リ、匠家ト名朝鮮ノ功ヲ熟
知セサリシガ、公様賜金銀參少許ヲ長崎奉行ニ遣サレ、支那人ヘ見セ
交易スヘキ否ト尋沙セ、玉フニ、支那人直ニ鑑定成リ難シト持
歸リ、朝鮮明年来リタル寸多ク、調へ度由望ミタルニヨリ、我國ノ人モ
往キ朝鮮人參ノ賣キヲ知テ、病人ニ与ヘ、切テ奏スルコトハ成リ、
寛政四年四月、將軍吉宗公ノ寸ニ教令有テ、病ニカアルヲ

前

將軍家郎前通典ノ寸ニ、必ス自ラ門内ニ山ニ登リ、教令解シ玉フ、
將軍家之ヲ知リ玉シ、其ハ仙戸シテ、組ノ上ニ居アリ、伊ツモ門前
ニ乗輿ヲ止メ、公ヨリ立テ与ニ決リ玉フ、或日、湯沐殿ヨリ、栗林
寸兩降シ、ケレ、其ハ仙戸駐来リ、定テ門前ニ罷立ル、其ハ兩天板門
下ニ扣ヘ在ルヘシト、台命ヲ伝ス、公様謝メ、後退キ玉ハサリシニ、
其ハ来リ、其ハ下ニ在ルヘシト、面シテ、台命ノト伝ケレ、暫ク門下退キ、通
典ノ寸進ミテ、恩ヲ謝シ玉フ

前

或時將軍家ノ世子、其ハ不例ノコアリシニ、公ハヲ尽シ、療養ノコトニ
上ヨリケレ、將軍家公ノ疾、其ハ後ニ玉ヒ、夕方迄居殘リ、大儀
ニ懸亡サル、ト、コトニテ、茶ヲ点メ、賜ヒ、日ノ世子ハ、渴セラルヘシ

ト、程年ニテ上野行セ玉フ寸モ公残り存セハ安堵シ玉フニヨリ、
先遣ニ及ス、田舎居タルヘシトノ合余ヲ送リ玉ヒシトモアリ或ハ病
有テ冬城シ玉ハサル寸ハ容体尚同ニ物ヲ賜フ一少ナカラス、
天明八年三月官ニ乞ヒ巢鴨ノ下邸ニ於テ夏季蛇術ヲ習古ク
士卒三命シ玉フ是迄執侯ノ邸内ニテ此事を成リシニ公如此ナシ玉ヒ

寛政五年春日京都所用向取極一賞詞ヲ蒙リ五仁八南院宮(御)尊号宣下ノ御勅々至王ニ故トソ此尊号ノ一京都ヨリ幕府へ御書アリシニ

應永三年九月止有之下秋ト仰之上又佐義後奏中兵向アリ二度ノ
応接ニテ此事寂ミシト注

此事未だ世間傳へぬ書アリ云々ヨリ其詳ヲ知ル
ル所ラス世に伝ふ外春ヤアタ多ク偽冒ナリ信ス可ラス外

元禄二年七月

山ヲカササル様ニ改ス（キ旨令セラシ、就テハ年若キ北臣自ラ氣
 誥リニモコレアルヘシ中、**策地ノ國庭**日ヲ定テ一藩上下ノ北ニ
 ニ控観ヲ許シ玉ス
 昔ヨリ執政ニ任スル決美ハヨキ領地ヲ希望メ得替ノ例カラス、
 サレハ公執政ト成リ玉ヒテハ、何方ノ轉運兵シカト一藩ノ人心格
 付サリケレハ、自厝ヲ以テに得ヲ示サシ、煎廣素儉約ヲ守リ、賤
 事ヲ以テ精カスヘシ、得替ハ領ヒテモ改サルヘト示シ玉フ、農
 民共モ亦得替アル（キヤトト云ヘ、因テ、深ク歎キケレハ、夫亦
 皇ノ詔ストモ、幽暗ノ其共耳ニモ入レス、他國ノ行セ玉ハ、如何セン
 ト憂ヒテ、農業モ勵マサル由、因玉ヒ、領分堺ノ椿杭ヲ石ニ改メ

サセ玉じしカハ心ナキ北臣モ之ヲ見テ果ノ志深キナギヲ知リ
志セリ又執以下ヲ玉にハ一方所拝借金口例ニテ殊ニ凶年
後又自ノ折ナレハ有司ホ申ス昔モアリケレハ許容シ玉ハサリ
ナリ

備中ノ古川平次兵イ号古軒海内ヲ遊歴ノ山川地理ヲ考メ
徧其頗多^有中興^有ヨリ松前帳多^有歴テ都下ニ返^有田
下^有寸^有山^有サレ親ク法景アリ清雅ノ老人ニテ殊ニ憐^有終
シ加ヒ玉にシテ深ク感銘シ出^有州ニテ得タル奇石三十種献呈シ
奉リシニ之ヲ賞納シ玉にシテ今ハ世ニ靈應タモモ望ナキ身ノ
榮^有料ナリ運故郷ハ言遣リ公ニシテ有徳公ノ孫^有当^有将^有耳^有家

總親ニテ輔佐ノ賢君ナルニ望外ノ名出ニテ咫尺ニ奉^有屏^有シモ
下向シ玉ヲ其長申上ルナト身^有眞加^有恐^有ロシキトテ速ニ旦四セシト
此^有前^有享^有和^有以^有此^有點^有賜^有鉢^有ト山水ヲホム由サセ^有東照宮ニ
戦地圖ヲ寄サシ奉ラセヨト^有領地ヲ贈リ玉にケレハ速ニ^有固^有雪^有事
各^有奉^有リ^有老^有後^有守^有復^有ニトテ公親^有各^有願^有ニケルニヨリ^有漆^有毫^有玉
ニ地圖^有寄^有ト^有白^有銀^有若干^有外^有老^有耆^有ノカニトテ^有素^有深^有得^有ナ^有賜^有リ^有玉

附 鄂都篇

菅晉仲^{没ス}

立身巨美^有辟^有衡^有岳^有数州^有素^有麻^有沙^有流^有六^有年^有漢^有水^有昌^有城^有
鄂都人百方半^有為^有魚^有子^有元^有當^有四^有廿^有歲^有強^有父^有子^有共^有以^有奈^有

行國備木心傷時事災餘殃未弭更旱蝗今年秋
遍海内斗米十千市莫能都下連日人懷結戶告列
必爭撞境古來謀身是肉食滿朝生哺多不樂大鳥
不毛之石鳴山鳥風激怒勢飛石咸謂此本既已成庸材難
支大厦傾皇料四氣順職裡忽現仰德聖色明首
權循良事救賑中成計日民忘急借問何人能解難
穀粒菟為令尹

事

却遺事

第十六回

公叔以ノ位ニ在ス一七年四家ノ為ニ心力ヲ尽シ平大政ヲ改

革シ玉紀徳大ニ張リ又盛ニ行ハルヘク彙進ニ出俗充實ニ府

庫ノ蓄蓄天下新

年ニ五リ世事行ハレ賞命アリテ賞セラレ

商人来朝

(注年ニ二艘ツ来リ冬府セシテ一艘トナシ五年ニ)

度ノ冬府トシ銅ノ輸ツテ減セラレ

ホノ事ニムル迄改メテ誅田ノ四米ノ方ヲモ措置シ玉ニ其餘内
外共ニ太平ノ流弊ニテ冗費多カリシヲノミ且キヲ謀リ用テ節
玉ニ天府庫自ラ充満シ出俗充實ニ時教普リ及ニ天下豹

新録
公卿
別

当時ノ御目付赤山源立市有カ自ラ記シタル盛ノ焼藻ノ結
尾ニ曰 定信朝臣天下ヲ輔佐セラレシヨリ、授奉賢愚ニヨリ
テ親疎貴賤ヲ分タス翁薨ノ北王性維免ノ北モ供 定信朝臣
退取アラレテヨリ人情忽チ突リテ授奉賢愚ヲ授ハス親疎各
別ニ分レテ翁薨ノ北王性維免ノ北モ性鳴呼ツク夕、空ヲ泳
メザメ歎ケモ天色モ情態モ蒼天上見我ヲイカンカル世中ニ
成タトハ前モ此後イカ計リ尊キ官取ニムルコトアリモセメ、誰カ
ソノ心ヲ味ヘ何人カ世外弁ルコトアリモ覺ヘテ、白雲内ノ折タリ紫ニ
カレシ如ク、今ハハヤ見ハテ又夢心地ノ世ニ後立モノホラテ身ノ
昔アマノタクモ、烟尼見シトカキタルモ、年々ト冬老シ、當日ヲ想像
スヘキム

別

京都大坂ヲ始、遠四有司ニ至ル迄、皆公ヲ倚頼ノ勤ヲタル
ナレハモシハ澤遠ホアリテ、此上ノ由不為ニ奉意ナキコト深慮
シ玉ニ親戚ニ在セ、鷹司殿下ヲ嫌居札ヲ贈リ、威權ニ帰シテハ
四家ノカナラス、将年京モ年積玉ハハ大以直裁シ玉フヘク、且後
来病身ナレハ、大仕ニ堪ス、教度内願ノ漸ク今度首尾能ク
免サレシ旨申進メシ玉ヒトハ、
法皇殿ノ後モ、幕府ノ優待、益々盛ニ、恩賜ノ礼数未始後同ニ
変ルコトナシ、特命ヲ以テ、月一ノ度ツ、参城シ玉ヒ、教ノ事ニ回テ
召ル、伊勢白子浦ノ船頭、幸太夫ト云、其魯曲無四ヨリ、ヨリシ
寸上覽所ニ出サシ、公ニモ巨細ニ尋問アルコトノ台命ニテ、

(在取中)

妻シ由昇アリ、亡テ又ニシヨク世主ニ尋玉ヲ、故鷹ノ片モ、
供奉ヲ命セテ、馬上ニテ此物ヲ寄アリ、恩遇比差ナカリシト云
此退戦後昇進ノ片、未始人ノ門前市ニ成シ、其後必々城ノ上ニ
ハレホマテ罵リ駭ク有様、故汝ノ必々城ヨリモ様盛ナハ、漆ノ悲悵
シキ、此故実易ニハ、避難ニ深慮シ玉ヒ、故汝ニ遣セヨ、冬城ノ故モ
外海詰並トナシ、有日ノ訪見、辭一切謝絶シ玉フ、清原
某ニ親ミテボルト、狼切ナレ、許シ玉ハス、儒官ノ榮野屋友杯
皆之、通達奉シ玉ル人、ノ、故汝中、時ニ機密ノ事ヲモ、深詢
シ玉ヒ、是因後ハ敢テ安ニ対話ナレ、玉ハス、儒官スラハ、
ハレ、要終ノ有日ハ、猶更対面シ玉ハス、斯ク為シ玉ハ、氏威權ナク

如

自ニ在カ如ク、世ノ人唱ニ奉リ、嫌疑ヲ免レ玉フ、唯ケレハ、其後モ
数ニ外海ノ如ク願ヒ玉フニ、一二許サレタルトモアリシカ、氏、終ニ願
ハクニ、命セラレ、ス、此退戦ヨリ十餘年ヲ経テ、
嫌疑モ絶ヘ、世人ノ目ヲ偏ス所ハ、其後幾ニ在リ、サレ、氏天下ヲ得
失美曲ニ付テ、公ヲ思慕スルハ、
同席ノ諸侯ト共ニ下城シ玉フニ、公、故列下リ、逆側ヲ歩行シ、三宗
ノ方ニ行逢玉フ寸モ、列下リ、礼ヲ尽シ玉ヒ、三宗及同席ノ方、モ皆
公ニ遙遠ニ来キ、感賞シ、却テ敬礼ヲ加ヘ玉フ、泊席ノ、聊後ニ玉
フ、ナキカ、只殿中ニテ直々長袴ヲクル古例ナレ、是、三同席ノ方、
下後、ノ、再ニ行ヒ玉ヒシト云

如

アリ、公親、西、金業堂、類字、八、幕府ノ士、志、東、一、向、流、局、上、此、ヨリ、来、
 一、押、廻、ノ、習、書、局、如、左、一、客、儀、局、後、方、習、書、局、詳、教、學、局、ノ、
 アリ、池、ノ、西、二、月、堀、敷、地、ア、リ、東南、二、金、銀、庫、所、居、合、堀、ア、リ、
 諸、出、裁、皆、此、條、ハ、馬、場、ハ、元、ノ、如、形、ハ、飯、ハ、傍、ニ、ア、リ、満、生、ノ、後、ニ、此、
 居、向、ア、リ、傍、ニ、役、寮、ア、リ、西、ニ、各、生、寮、ア、リ、寮、生、一、切、東北、ニ、文、庫、
 立、リ、立、教、館、ハ、向、ニ、伊、勢、神、宮、後、ヲ、安、置、セ、左、ニ、
 東、照、堂、ハ、廣、川、領、四、公、勸、學、寮、ハ、右、ニ、四、各、ハ、往、テ、親、各、納、メ、
 玉、リ、成、金、朱、ノ、自、ラ、毎、年、開、講、ニ、教、授、向、廣、河、各、院、堀、ニ、滿、
 シ、子、頭、成、金、ヲ、捧、読、ス、毎、日、二、度、教、授、學、頭、ハ、學、西、各、シ、滿、
 一、藩、下、一、向、ハ、廣、メ、之、ヲ、提、駐、滿、ハ、廣、河、各、院、向、ニ、滿、和、ア、リ、

○シ、著、シ、玉、ノ、親、マ、一、冊、ナ、シ、立、教、館、ハ、納、メ、學、禮、朱、ノ、家、ハ、外、
 年、ハ、ハ、キ、音、ニ、分、レ、一、藩、ノ、學、ハ、ナ、カ、ナ、シ、
 一、童、蒙、ハ、正、メ、童、兒、ニ、徒、セ、セ、シ、

教授廣瀬典學ハ廣田憲令勸之、近臣及以、諸生、ノ、駐、
 又、ハ、心、表、成、各、院、滿、教、授、學、ハ、四、ヨ、滿、ス、諸、有、一、藩、ナ、
 席、ス、江、戶、部、ニ、モ、ナ、シ、後、江、戶、ニ、尾、友、ニ、洲、ヲ、正、テ、經、各、滿、教、ナ、
 此、日、城、毎、三、不、日、立、教、館、ニ、趣、キ、拜、礼、シ、玉、ヲ、之、ヲ、成、夫、ニ、拜、ス、教、
 提、四、各、中、ヲ、滿、ス、此、時、ハ、名、稱、成、奉、供、セ、出、席、ハ、皆、麻、上、下、ヲ、
 美、メ、其、他、佳、時、ニ、折、シ、金、業、ノ、席、ハ、山、所、舊、吉、坊、ニ、住、ミ、玉、
 一、年、二、度、出、考、試、アリ、親、ヲ、學、校、ニ、送、ミ、玉、申、レ、科、ニ、依、テ、賞、
 ヲ、賜、ス、山、所、成、成、覽、印、ヲ、給、中、ハ、賞、ヲ、賜、ス、學、問、ハ、階、級、
 出、所、ノ、階、級、位、授、モ、シ、賞、格、アリ、教、ハ、文、武、ノ、師、ニ、教、令、シ、
 萬、ノ、教、導、セ、シ、メ、シ、又、武、ノ、人、材、次、才、ニ、準、セ、タ、リ、

玉、ノ、諸、臣、ニ、駐、肉、ヲ、許、サ、ル、又、易、經、ノ、廣、問、
 ア、リ、二、洲、下、世、ノ、江、村、家、ニ、質、向、シ、玉、ヲ、

郷学所ヲ立サセラル。城下ニ在リテ敷教才一令トシ
 北六里河賀川ニ在リテ敷教才ニ令トシ。司読師オシ。席
 讀和ヲ令セラル。町役人ノ中ヨリモカテ幼童ノ行儀等々筆
 ノ世ハヲカサシメラル。寛政十一年開講アリテヨリ、日毎ニ出
 席ノ者多シ。教化漸々ニ及ビ、孝ノ道ニ長シ。家業ヲ勵ムヘ
 キヲ知テ、凡俗善ニ移リ、教授廣瀬典シテ敷教朱約ヲ
 居シメ玉フ。

實効、廣輿典、廣田憲、今昌平學に入シメテ、興ハ寮
シ、且キ南ニ京相ヨリ、四田中國九州ニ旅費ヲ賜ハリ、於
學セシムルハ此兩人ノ詩二男ナリトテ、擢テ、學取ニ任ス

後典ノ處ニ一様ヲ達添玉ハルヘク文ヲ念セヨト命有シ國ニ侍
ミ奉リケシハ其教授ノ為ニ此ス必ス諄スルヲ勿レト仰ラレテ様ヲ
達テ勿悻様ト名付ケ自ラ記文ヲ居キヲ賜ハリケリ同僚ノ
諸生席ニ相目賓スル由サ玉ハ漢儀内シ賜ハリシヲナル
寛政ノ末ヨリ責善会ヲ設ケ責善集一巻ヲ自ラ撰シ玉
ニヤ一初學ノシヨリ出タル北腹痛ヲ志ルヘキに得又教義
仁ヤリヲ辭ト易リ居セ玉ハ平生程文ノ北之四輩云々六
輩ヲ相公ノ心腹ヲ明ニ偏意をラシシヤトシ多人教
ヲ禁セラル先ツ責善集一章ツ、梓讀熟一味ニ其趣意ニ
本キタニ切實スルヲ計リ、其年若キ者ノミハスモ長ヨリ

庫シ尽ノ由家ニ伝玉ロシナリハ
 國學ハ小栗田ハ道ヲ京都ハ遷サレ修得セシメテ
 記録美ヲ百サレメ、立教館ノ文庫ニ格メテ、後又以奉久六
 シシテ江戸ニシテ、國學ニモシルハ全執テ傳授セシメテ、後又村
 田平四郎春海ニ五人扶持ヲ賜ハ、世用向リ并セシメテ、春海
 没メ松山坦齋ニ命セラルルニ、六國史神纂ハ巻編集、切ス
 ロリ、一ツ國學、專ラ四史正統ハ、前シテ命セラルルニ、
 伊勢小笠原家礼儀ハ、儒士ヲノ學ハシメ玉、俗信ヲ清ルニ、
 一ツ淺井四郎左ノ門以礼ハ、天文傳學ニモ石井庄助ハ、蘭學
 ニモヒルヲ、美、格ハ、花ハ、一巻ニ傳ハ玉フ、

旨

町ハ花キリ主トシ玉、諸流ハ各強ラヨ下ケ置トシ、各修
 練シ、次カニ強ラシメリ、致仕ノ後、飯田侯ノ藩中ニ、早用ノ
 射者リトシ玉、保國公始、兵水ハ、門ノ外、後強強ラヨ自由
 ニシリ、又ハ、小笠原伊勢三流ノ射礼ヲ習ハシメ、射ヲ命セラ
 ル、東國ハ、古武ヲ慕ヒ玉、且下メ、決流ヲ學ハシメ、後、年海防ノ余ヲ
 蒙リ玉、且、氏安房上格、此傳屋ノ馬ハ、古バ、二鞍ノ如クヌヘシ
 ト命セリ、野子ヲ引ハシ、東方射方ヲ習ハシメ玉、致仕ノ後、
 此所侯ヨリ、野子ヲ求メ、後、此射置玉、其、東、南、北、射方
 ニテ、入費サリ、一石、十足、昔ノ定、如ク射ハシ、大ニ感シ玉、
 且下シ、入、門、學シ、メ玉フ、

種駒集ニ、公、中、井、成、リ、三、年、ニ、始、
 百、尺、程、用、ヲ、集、ハ、シ、玉、リ、



ノレ、廣キ湖トナリ、舟ヲ乗テ遊ニ

タルモ有トナリ

横濱市立女子高等学校

初等校を達志して、女白、何し、い、年、中、男子十一人、
皆、入、学、ス、ハ、十、五、文、上、ハ、其、出、籍、シ、ハ、ス、ハ、女、白、性、質、ヨリ、
如、シ、ナ、リ、サ、ル、其、申、出、ハ、シ、年、セ、リ、し、退、校、後、東、方、京、以、カ、リ、
殊、ニ、女、白、人、才、成、育、ヲ、提、振、シ、自、ラ、勉、勵、ノ、一、番、ヲ、勤、業、シ、玉、
駐、以、餘、暇、ニ、屢、ニ、学、校、ニ、出、テ、教、授、学、ハ、ニ、教、育、ノ、主、方、ヲ、
諸、生、諸、教、養、流、ホ、リ、同、玉、其、地、一、品、毎、ニ、一、覽、シ、其、新、術、
玉、其、雪、折、ナ、リ、木、綿、頭、巾、ヲ、或、キ、後、来、病、疾、ヲ、患、シ、玉、
其、初、ナル、ヨリ、聊、厭、シ、玉、
居、テ、ハ、五、三、新、洞、ヲ、命、シ、玉、
其、以、ハ、厚、シ、節、儉、ヲ、法、シ、玉、
其、居、間、置、

ヲモ依實禁と置キトモ禁古所ハ禁則ノ命ニキリ
禁用ノヨリナリ又時ノ回籠手ホリ下ニ賜ハリ又諸流ノ
出精ガ出来年未ニ取調ハ各上ニテ毎月ノ末ニ帖面ノ美
又キ首ヲ束ニ玉ニケル人ノ一層知照セリ

附 白川集都（？） 山陽集

平政ノミチノ新 新ノミチノ都のミチノ新

ミチノ新

ミチノ新のミチノ新のミチノ新のミチノ新

御遺事 第十九回 八月

御在城ノ時、重臣ノ年若キ北又立放諸生ノ中志萬キ
者ヲ召シ、大學ヲ首トシ、往唇ヲ自ラ備メ駐シメ玉フ、修身
治四ノ事ヨリ日用ノ事務ニ及フ迄深切ニ説玉ハ、學ニ疎
キ北モ心得シ易シ又宜臣ノ病ヲホ年少ノ北シヨシ古人
忠孝義烈ノ事跡ヲ引証シ、所ニ教諭得失ハ細カニ説示
シ人材成就ノ一特ニ我一家ノカノミナラス有材ノ人ヲ
四以テ拔ルル中天下ノ力ヲ強リスルニテ、直ニ天下ノ
切ニ盡海ヲ重シ玉フ、門下ノ既南只德順ノ目立サレ
様ニ心得才器ヲ陳磨セス、文立ヲモ勉勵セス、平生ニ重

也之、其貞に格別の心付モノ、素病ハ此多し、此ニテ後
 汝用ニ立ニテ賞束ナシト、因白シ、或漢程ヲ耻シ、或ハ心
 術ノ工夫ヲ余ニ垂テシ、或時虚ニケルハ汝未ダ老ニ聲シ、今予
 梅ノ答ハハ答ハハ、紅蓮甚廉シ、ナレバ花開ケハ薄紅成テ
 答ハハ中ノ所ナラズ、人モ若キ片、却屋住老役ノ中ハ、余程様子
 ヲシ、和母シク見エレ、臣官ニ進ミ以テ預リテハ、左ノ三枚群ノナ
 キハ多シナレハ、年若キ内ハ、随分勇奮ノイヲモナシ、才徳ヲ
 磨キ、女ガ効勵スヘシ、只後順ニ目立ヌ様ニト、心掛ル片
 ハ、中庸ノ人ニ止ルヘシ、キハ精力ヲ盡シ、力クヘキハ、教ニ示シ、五ノ
 又兼テ熟練シ、玉ヒル柔折ヲモ、此指南アリ、其時モ、統風論

アリテ、治四民ヲ率ニ教諭シ主ニ仁

子ヨリ文化ニ貢リ、年若キ侍臣多カリケレハ、女官ノ業切實
 二指學シ、玉に常ニ宣ヒ、我年若キ此ハ、女官ナリ修行シタレド
 何一ツ學ビ得ズ、思フ以テ、折モナク、脅カシセサン中、勉メ試ミタ
 氏サシタル力、出サリキ、若キ其片時モ、僚ナケレハ、安念生セ
 ス、読ミ筆記、舞管ホ、替古シ、厭倦セハ、劍履弓、柔居合、何
 テモ、南面ナリ、修行スヘシト、教ニ玉フ、衣服ハ、流行ハ、紋美、屏ノ
 色ハ、徒ノ、柔弱ニ似タル也、若用ス、ツラスト、堅シ、戒メ、初、天明
 此、白川ニテ、一侍臣、若用セル、帷子ヲ見玉ヒ、帷子ハ、當時江
 戸ニテ流行、品シ、汝ハ、何スノ、有合シユハ、着タルミ、ナリ、併シ

「ハ」ノ「ニ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
祝善スノ「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
テズ「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
十二「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ

附

難波ハルノ「ハ」其番ヲ考ヤサレ

ニ「ハ」其番ヲ考ヤサレ

向「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ

御遺事

第二十回

九月

寛政六年十一月二日學校ニ臨ミ偏リ諸生ノ業ヲ考ヘシ
玉「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
ノ後始テ其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
細領ノ漏セシメ學校ニ掛リ決有「ハ」其番ヲ考ヤサレ
側列ニ置シメ公ニ中央ニ座ラセ玉「ハ」其番ヲ考ヤサレ
賜「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
其番ノ業盛ニ勸勉ス「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ
玉成「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ

行末國定「ハ」其番ヲ考ヤサレ由ヤラン「ハ」其番ヲ考ヤサレ

秀テタラシテ賞セラシ野太刀ヲ賜ハリ樋口兼光ノ取肉ナシカ
コトミヌヘ也経橋ヲ賜ハリ若狭金五兩ハ帝ニ火術ニ老萬ノ
或ハ火術ヲ作ラシメ玉フニ達ニ教イテ作リテ奉リケレハ長刀
ヲオセテ玉ハリ又大觀^{百目廿日}尚^{百目廿日}ヲ試シテ^{世目十箇}手ツカニ座
右ノ十女目^{廿日}ヲ賜ニ種間^{廿日}成吉イニヌニテ大^{三十日}何^{廿日}ニ百^{廿日}獲^{廿日}演習
セリヨ賞ノ金ヲ賜フハ此女目ノ業ニシテ用井テ勸奨ナシ玉ニシカ
ハ上下共ニ女目ニ勸精シ江戸郡内ノ中間ホハ昼夜暇ナキニ四層
五経ノ素読ヲ終リタル者三人アリシカハ金十兩^{廿日}ヲ賜ハリ
テ賞セラシ後年中^{廿日}西ノ^{廿日}經年トナリ義友仁左ノ^{廿日}霜田^{廿日}所
左ノ^{廿日}ト^{廿日}今一人ハ^{廿日}仙吉トテ商人タラント^{廿日}汝^{廿日}由^{廿日}玉^{廿日}金ヲ賜ニ^{廿日}白

河ミテヨ驛ト成リヌ

女目ノ修行ハ一策ニ玉フモアリ願出ルモアリニノ男ホ若^{廿日}子ノ
老有テモ貧窮ノ為ニ^{廿日}遂^{廿日}ニ^{廿日}能^{廿日}サル^{廿日}北ハ修行科トメ米金ヲ賜ニ
其力ヲ竭サシメ玉フ政三人オ^{廿日}力^{廿日}ニ^{廿日}成^{廿日}育^{廿日}シ^{廿日}旦^{廿日}迄^{廿日}播^{廿日}中^{廿日}ニ^{廿日}ナ^{廿日}キ^{廿日}種
ヲ^{廿日}得^{廿日}タル^{廿日}モ^{廿日}不^{廿日}少^{廿日}其^{廿日}進^{廿日}修^{廿日}進^{廿日}ハ^{廿日}年^{廿日}其^{廿日}私^{廿日}食^{廿日}ヲ^{廿日}作^{廿日}リ^{廿日}種^{廿日}嘉^{廿日}種^{廿日}ヲ
賜ニ^{廿日}能^{廿日}行^{廿日}ノ^{廿日}余^{廿日}ホ^{廿日}今^{廿日}年^{廿日}ノ^{廿日}モ^{廿日}リ^{廿日}又^{廿日}病^{廿日}迫^{廿日}テ^{廿日}者^{廿日}ヲ^{廿日}モ^{廿日}憐^{廿日}恤^{廿日}セ^{廿日}者^{廿日}
鉤工手^{廿日}柄^{廿日}山^{廿日}ニ^{廿日}鑿^{廿日}ヲ^{廿日}呂^{廿日}杓^{廿日}テ^{廿日}レ^{廿日}シ^{廿日}中^{廿日}古^{廿日}刀^{廿日}ヲ^{廿日}傳^{廿日}口^{廿日}種^{廿日}致^{廿日}ヲ^{廿日}交^{廿日}工^{廿日}ノ
ヲ^{廿日}ス^{廿日}又^{廿日}受^{廿日}得^{廿日}タル^{廿日}助^{廿日}廣^{廿日}ノ^{廿日}由^{廿日}ヲ^{廿日}東^{廿日}ト^{廿日}ナ^{廿日}ス^{廿日}ヘ^{廿日}シ^{廿日}ト^{廿日}成^{廿日}メ^{廿日}玉^{廿日}ニ^{廿日}シ^{廿日}カ^{廿日}ハ^{廿日}ニ^{廿日}
繁^{廿日}終^{廿日}世^{廿日}堅^{廿日}リ^{廿日}此^{廿日}由^{廿日}教^{廿日}戒^{廿日}ヲ^{廿日}守^{廿日}リ^{廿日}晚^{廿日}年^{廿日}清^{廿日}乱^{廿日}亂^{廿日}レ^{廿日}燒^{廿日}ヲ^{廿日}成^{廿日}得^{廿日}ノ^{廿日}差^{廿日}添^{廿日}一
刀^{廿日}ヲ^{廿日}種^{廿日}ニ^{廿日}奉^{廿日}リ^{廿日}ケ^{廿日}レ^{廿日}深^{廿日}名^{廿日}秘^{廿日}ノ^{廿日}神^{廿日}物^{廿日}ノ^{廿日}二^{廿日}字^{廿日}ヲ^{廿日}銘^{廿日}シ^{廿日}成^{廿日}德^{廿日}極^{廿日}ノ^{廿日}後^{廿日}差^{廿日}添

中儒生ホ侍父ヲ奉リテ之ヲ頌セリ白川城ヨリ廿余里ニ
シ飯坂ト云ルニ温泉アリ寛政十二年八月此ニ行セ玉ヒ
所飯坂保原懸田等村ニミテ七十以上ノ老民ヲ召シ酒ヲ
賜リ自ラ作リテ何モ所ナシト宣ヒテ只ノ平伏スル
モアリ此等ヲ見奉ラントテ仰キ奉ルモアリ涙ヲ流メ拜ミ
奉ルモアリ此ハ地遠ク所行鷹狩ニモ見奉ルハ十ヶ
殊ニ歡ヒテ自ラ作りシ茶手織シ麻木綿ノ装ヲ奉リテ皆
常用具トナシ玉フ

附

山部

此の山は白川城の南にありて山部氏の墓と云ふ

御書事

享和二年十一月

一藩ノ臣下ノ咸穀アリシヲ復古シ玉ヒ寛政二年五
月廿日ヨリ本知ニ賜フ昔高田白河ニ移封アリハ臣等
町統キ且公役ホ重シヨリ漸ク列末多シ成リ行キ代
君深ク心ヲ痛ミシメ玉ヒシノ貴意ヲ継キ隨素儉約ヲ專
トシ玉ヒ此宗督ヨリ一年目ニ本知ニ復シ玉フ成氣督ノ
始ハ大飢年ニシテ民ヲ救フ玉ヒ費用不ハム所繁劇中ニ
皇々思量計置シ玉ヒテ終ニ歴世ノ遺志ヲ成就シ玉フ此孝
仁藩ヲ奉テ威徳ヲセリ右ニ付目録ヲ下シ後百素儉約ヲ
ハ山部厚ク心掛ヘキ有テ今之ヲ殊ニ非常ノ凶飢ヲ加ヘ平生

凡數十卷
音ナラカ増三
以テ終ル

礼儀ヲ正シ玉ノ宸政四年ニ及ヒテ一藩軍役ヲ改ニシ
出貝馬具各々其分限ニ應ジ所素ニ手堅ク実用ヲカ
ナシ花鹿ヲ好ム可ラスト令シ玉ノ

諸有司ノ心得役毎ニ悉ク記シ玉ノ之ヲ規定トシ其規

定ニ定メ玉ノ時先ッ人君ノ規定ヲカヘ三宣メテ其食住ヲ規

制シ修身ノ本一藩此旨ノ掟トナリテ其老ツル食住ノ三ヲ

度ナシ第ニ勤メ行ヒ玉ノ此旨城ノ時成并テ其味増香

ノ物ナリニ成同席ナレテ其西菜ナレモソレニ味合著ク

玉ヲイナシ東照宮ノ坂者傳ノ時ノ味増香ナリ一牧

ノミ大敵公此鷹野ノ中親極ニ飯一盃ニ其味増香ナリ

上ラレシ由又今モ此譜代熊ト称ノ難數ヲ掲セタル熊ヲ制シ毎

月朔望ニ奉リ此例勤ノ可ク賜フニホノ深意ヲ察ノ旨朕ノ心所素

ニスヘキトナリ有ヨシ示シ玉ノ御儀四十餘ニテ上着ハ不潔ヲ着

シ玉ニ之カ其後肩背ノ痛ミニヨリテ御着玉ノ御着モ此

証生ヨリタリノ不潔ニ貴族衣服ノ難美難得ナリホノ

宜アリ平生ニ何ニテモ苦シカラスト示サル此旨院内木柱ニ付

所素ナリハ此居間モソレニ准シ簾紙紙葉ノ紙付ニ改仕ハ一生ノ

終ラ全ク此旨ナリ世ヲ世ニテホヲ極メント思フナラス細言

益々慎勤スル四家ノ坊ヲナシ血名ヲ流スニシテ未仕尤所

素ナルニ世子ノ政事ヲ後スナラス上邸住居タルニ衣服

飲食質素ニ好ミアルコトヲ不_レ夫_レ人_ニ何_レ方ヨリ入_レ連_ルアリ_ニ里
方_ノ凡_ソ用_フコトヲ不_レ以_テ船_ノ勿_レ論_ス表_ス方_ノ一_ニ表_ス言_フアル可_ク
不_レ宜_メラ_レし_ニ船_底ノ_分正_シカラサルヨリ_ニ四_ノ氣_ノ害_ヲ生_スル例_ナク
十_ノカ_ヲスト_テ船_底ノ_分殊_ニ炭_ニ之_ヲ玉_フ世_ニ他_一ノ_分極_メラ_レし_ニ十
裁_ハ後_ニ取_ル所_ナス_{コト}ヲ不_レ委_スス_ル系_ニ玉_フ

暖物衣服ヲ始メ、元テ世間ニ流行スル北ハ、一
 切禁セラル。成供ノ
 者、故ラニ殊ナル規^ル禁^ル威^ル。又カテシキ^ルヲ禁セラル。大ハニ
 付ル^ルヲ禁シ、公羽^ノ帶刀^ヲ、袴袴^ヲ、袴^ヲニ衣、腰天^ニ糸^ヲ袖^ニ入ル、
 一^ツヲ毛禁セラル。

寛弘九年、始テ庶奉行シ、盟ル。武用ノ上席ニテ、政事ニ参スル。

役之、舞臺以下ヨリム戸手、杖取一人ニテ故障ホル、片ハ賣代
 リテ事ヲ扱テ、使者以上ノ人材ヲ用ヒ玉フ、女化九年、出舞、蛇ノハヲ
 蓋ル、虫物ハ、上席ノ、其組ヲ大向役ト云、女目以上、大向
 シ、打ッ、落ニ、四組ヲ十八、頭取一人ツ、ハ、柄腰キ、毛刀ヲ佩フ、疾
 ク殺シ、熟練スルヲ、才一トシ、大鏡、連鼓、烟ノ下ヨリ、毛刀ヲ
 以テ切入ルヘシト、全シ玉フ、蛇、肝ニ、傷レ、進退、厚用習熟ノ免状
 伝ヲ得タル北ニハ、毛刀ノ柄、皆朱、目録伝ヲ得タル北ニハ、半朱ヲ許
 シ、五ノ、是迄、御先手組十六組アリシヲ、十二組トシ、六組ハ、大向
 六組ハ、小向組ト唱フ、大向ハ、十女目以上、小向ハ、百目ヲ甚ニテ打ッ、
 一組十二人ハ、一人宛ニ、其後、蛇ヲ夫アリテ、毛刀、車、腰ヲ、制ス

今更

一、唐バ紐五挺ツ、二人掛リ、ハ本鞍ヲ相四ツ、進退操縦
 エルヲ、教玉下西目ノ角ナレ氏、甚打ナレ自由ニ打ツヲ
 得進退操縦自在、法ハ自ヲ教シニ授ケ玉フ、世ニ稀
 ナル法、ハ角ニ元無クハ女目ニ、的亦ハ舊古ヲ止メ、東ヲ進
 退ハ備打ヲ習ハシム是モ業務ニクル此ハ銀ニ墨俵ハ之
 津事ヲ着来ニ、其次ハ半朱ヲ許サル是ヨリ付シモ初精ノ業
 務ニ此ハ掛摩キモ多クナリ、此精向紐モ口ク大ハニ分テ
 御那代細本紐新紐ハ皆ニ女目ヲ用也、
 附 苗蓐 山阳逸民
 炉畔围春共、餘年草堂吟、祝堯天、東苑幸、周昇平、化把素琴、
 調舞絃、
 長

調氣弦

復

廊遺事 第廿三回 十二月

庚辰改仕ノ後、庚辰奉組旦経世人ヲ新タニ命ジ、庚辰用入ニ諫セテ
 一第ニ六生目ヲ打シメ、又其人ノ力ニ依テハ、大筒ヲ打シメ、斧折ノ木ニ
 テ桶ヲ作り、萬ニテ打ソコト教玉メ、九枝士松以下ハ、玉糸ノ費ヲ賜
 フコト約定アリ
 陸奥東也馬ノ成、庚辰由身番ノ定アリシヲ、后下トソ成供メテ、和ハ
 ル者並シハ、其時ニ迄ミ、供目、鑑ヲ以テ命セラルヘシトテ、諫メニシル
 コトシ、廢セラルル神蓋條トテ大根ノ條ヲ成工夫アリテ、一條ニ組ツ、加ヘラレ又。
 庚辰物ハ、養梅鉢ノ向章ニ金ノ幣三奉、下ニ五十枚ノ金ノ短尺ヲ
 付天庚辰仕ノ狀ヨリ、毎春試筆ニニ枚宛、唇玉にも有、如何思召レケ

△一、（ハル）
紅毛ノ火炮ミヨリテ御王夫アリ四友能当ニ命セシ
能当モ其ル所アリテ全成ス火炮ハ発シテ十リガ其ハ発
点ハ火燭ス打セテ其早ク十四五間ニテ厚サ一寸許ノ板
ヲ打通シ中リモ細ヤカナリ御致仕後モ御手元ノ餘金ノ數千兩成リタリ

○訖士ノ二三男十七才以上ノ者ヲ探ニ獲物組ヲ結ビ谷ノ獲道具ヲ持テ事アル所ハ一方、任ニ當リ、平日ハ之ニ加テ其身ヲ謹慎セシムル者モ有リ
カナル
松平石見龜二居ニ

甲寅時分
印信紅羊科下

一、長八組五挺以二人掛リ、小太鼓ヲ相四ツノ進退操縦
 エルヲ教玉下面目ノ爲ナレ氏甚打ナレ自由ニホッテヲ
 得進退修横自在、隊位ノ法ハ自ラ熟シニ授ケ玉フ世ニ稀
 ナル法也、ハ付、元無クハ女目ニ的前ハ舊古ヲ止メ、東ヲ進
 退ハ備打ヲ習ヒシム是モ業條ナル此ハ假令三星陣也之
 陣多ク者未ニハ其次ハ半半ヲ許サル是ヨリ付シモ所精ノ業
 條トス此ハ掛厚キ尤モ多クナリ、此特向但モワシ大ハ三分子
 御即代細奉紙新紙ハ浴ニ女目ヲ用也

附
 苗草
 山陽逸民
 調舞錢
 長

此系前條
卜今一年上

唐遣事
第廿三回

唐改仕ノ後、唐族奉祖旦経世人ヲ新夕ニ命シ、唐附庸人ニ預ケテ、
一葉ニ六文目ヲ打シ、人々其ノ力ニ依テハ大將ヲ打シ、公谷新ノ本ニ
テ楯ヲ作り、葛ミテ打ツ。テ教玉ス、仁徳士族以下ハ至柔ノ人費ヲ賜
フ。イ各定アリ。

此亦入
 出果ニテヲ用玉テ一凍シ成伝来
 シモ又古代ノ制ヲ換シ或曰ク考ハ制ニ至テモアリ代ニ一度ハ新ニ
 製セラルハ梳トナシ其餘ハ出典ト是備ハル上ニ制ニ至テハ物スキナシハトテ
 法手元ノ有餘ヲ以テ制セラルハトナシ玉フ
 此亦入
 此亦入

今一（不知）ハル
紅毛丸炮ミヨリテ御工夫アリ四友能当ニ命セシ
能当モオタル所アリテ全成ス丸炮ハ発シテ十リガ甚ハ発
点ハ丸端ス打セテ甚早ク十四五回ニテ厚サ寸許ノ板
ヲ打通シ中リモ細ヤカナリ即致仕後モ御手元ノ餘金
數千兩成リタリ

○計士ノ二三男十七才以上、丸ヲ撰ビ、獲物徑ニ籠ニ谷ノ
獲道具ヲ持テ幸アル所ニ一方ノ仕ニ當リ、平日ハ三ニ捕獲
メ其身ヲ撞潰セシムル者多シ。松平右見殿ニ傳ヒ、

二十ノ春、ナ枝ナリ、居ニテ、尽ク居終リ、玉ヲ此處指物ハ、
物、由、由、印、ニ、用、ニ、短冊、ハ、割、付、ニ、用、ニ、玉、ヲ、ハ、キ、添、置、ナリ、
ナリ、因、ニ、記、ス、享、和、二、年、七、月、廿、九、日、廣、瀬、教、授、ハ、此、居、下、ニ、曰、
「大、笑、ノ、事、ナリ、」傳、居、ハ、タ、シ、上、ニ、書、印、ハ、欠、字、ヲ、下、ナリ、
欠、字、ハ、様、共、添、置、可、申、
致、仕、弥、思、四、思、深、 告、先、後、星、先、登、心、ハ、注、ミ、ハ、シ、
武、若、借、具、ニ、ホ、ナリ、有、リ、ナリ、金、ニ、具、ニ、師、明、珠、等、ヲ、施、ハ、修、補、セ、シ、メ、
此、呂、科、ヲ、毛、割、セ、シ、人、傳、羽、徹、モ、多、ク、割、セ、シ、メ、又、硝、子、ノ、工、人、
ヲ、集、メ、製、法、種、々、尋、ニ、上、江、戸、大、家、ノ、邸、内、ニ、テ、数、方、作、ラ、シ、メ、身、
細、ノ、至、ル、ヲ、待、テ、之、ヲ、試、ミ、加、州、ヨリ、出、ル、硝、子、ハ、傳、ニ、テ、上、品、ナリ、下、鉄、

世子公子ノ初幟ニハ旗弓銃炮長柄ヲ製シ
立并セラルル其度毎ニ武大増カシ不虞ノ備
トナシ玉フ旨趣ナリトシ
コレハ本文

炮師國本能事ナリ、加州ヨリ多ク運搬セシメ、炮術鍛練ノ至ニ振和町
分、其、技、術、精、進、ニ、注、シ、硝、子、ハ、倫、ニ、書、大、家、邸、内、ニ、當、テ、モ、有、リ、ナリ、
二、石、蔵、ヲ、作、リ、非、常、倫、ニ、書、ニ、テ、硝、子、對、内、收、貯、内、村、ニ、テ、多、ク、産、ス、ル、様、ナリ、
ノ、硝、子、用、ニ、カ、ラ、ス、又、硝、子、ハ、火、藥、又、硝、子、有、リ、二、品、ホ、ト、テ、白、硝、子、ハ、
ハ、ヨ、ク、火、藥、黃、別、ニ、製、シ、置、置、用、ニ、時、ニ、注、ミ、テ、混、和、ス、ル、用、ヲ、為、ス、此、硝、子、
ヨ、ク、カ、ナリ、此、硝、子、ハ、火、車、ナ、キ、イ、テ、湯、ガ、リ、鉛、封、内、收、貯、内、村、ニ、多、ク、産、ス、
ハ、様、ナリ、又、硝、子、用、ニ、カ、ラ、ス、カ、リ、統、術、ノ、ニ、テ、用、井、モ、様、敵、銃、ヲ、防、シ、
キ、硝、子、ハ、ニ、テ、五、夫、ヲ、造、シ、又、硝、子、試、ミ、ナリ、倫、ヲ、為、シ、玉、ハ、リ、
又、此、五、年、内、硝、子、城、ノ、前、五、百、石、未、滿、ハ、北、一、町、ニ、金、ヲ、賜、ヒ、着、ニ、方、ヲ、改、メ、
硝、子、造、リ、本、ト、シ、造、年、一、已、ノ、倫、ヲ、立、テ、後、ヲ、手、堅、ク、改、メ、キ、昔、親、居、

文化五年、硝、子、城、ノ、前、硝、子、造、用、ノ、前、人、ハ、白、河、ニ、大、火、ナ、キ、カ、人、油、面、
ス、ル、此、アル、者、故、ハ、火、ノ、用、ニ、致、シ、人、様、仰、セ、サ、レ、因、テ、火、ノ、カ、シ、威、ホ、メ、テ、沙、汰、シ、
至、ヒ、ニ、翌、年、二、月、果、シ、大、火、アリ、急、キ、注、進、ア、リ、テ、火、ノ、カ、シ、威、ホ、メ、テ、沙、汰、シ、
早、ニ、城、下、ニ、テ、火、矢、ノ、警、告、致、シ、人、様、仰、セ、サ、レ、因、テ、火、ノ、カ、シ、威、ホ、メ、テ、沙、汰、シ、
引、立、玉、ヲ、カ、ナリ、ト、シ、此、硝、子、造、用、ノ、前、人、ハ、白、河、ニ、大、火、ナ、キ、カ、人、油、面、
ナ、リ、カ、リ、ト、シ、此、硝、子、造、用、ノ、前、人、ハ、白、河、ニ、大、火、ナ、キ、カ、人、油、面、

武士タル其ノ筋骨ヲ墮ニシテ
 相成ニ向仕士ケノ死ナリト
 國貞車ハホ陵シ下人俱ニ折
 シ人美モガシモ苦シカラス
 付聊取人視ニ多之申音演
 盡セシメラシニカハ是ノ

一番奉^ルニ賜^ハリ^ニ没^ス決^シ士^ノ志^ヲ事^ヲ調^ヒ不^レ慮^ル佃^モ立^ケレ^ド一^ニ男^ノ
 多^キ共^ニ自^ラ貧^シ困^ニ及^ブレ^ド苦^シ慮^シ五^ニ農^ノ兵^ノ加^リ村^ノ民^ニ住^ス居^ス
 セ^ニハ^ニキ^ト深^シ慮^シテ^テ物^ヲ士^ノ山^ノ野^ノ馴^シ力^ヲ業^ヲ改^メ人^ノ筋^ヲ
 骨^ノ健^ク九^ノ三^ニテ^テ毛^ヲ氣^ヲ筋^ヲ毛^ヲ直^ニテ^テ英^ヲ氣^ヲ引^キ立^テ相^ニ成^リ古^ノ
 ハ^ニ已^ニ奉^ル仕^ル者^ニハ^ニ田^ヲ耕^シ取^リ獲^キ由^リ立^テ久^ク八^ノ王^ノ寺^ノ中^ニ同^ニ心^ニ

其又仙臺林三毛柳士林ノ水ノ土著段ノ北毛丹由今併民
同ニ和入テ自ラ送送ノ節ノ有之向成城下近以新開ノ相成
土地ノ願次才相成ノ所手當可成下由何也サハ空居ノ二男
ヲ始頭金村ニ住居シ新田ヲ開者セシメラル又本知ノ後
於家内多者其飯料不足ノ北毛可有トテ上下相成ヨリ其
引下ノ成米ヲ与ヘラシ養養極極事杯委リ沙汰事ナリ
附 歳暮 次 酌 六合舎人
萬壽無疆 里 志 年 梅 花 金 笑 太 平 天 清 明 清 三 津 浪 川 流 雨 共
欣 漫 撫 緒

御事 第廿回 廿五年四月

白河ノ産土神康島明神ノ祭礼ハ土地ノ習俗ニテ神祭ヲ殊ニ
屋臺ノ舞殿ヲ東ト西ト律ト市街ノ後ハ跡シ屋臺ノ数ヲ
減シ美服ヲ禁シ且ツ市中幼童ノ者ノ舞殿ヲ習フヲ禁
シ右ニ其家業ヲ怠リ凡ハ必ヲ需フヲ防キテ
白河内城ニ成殿ノ園庭ニ得難キ茶科ヲ植ヘ之ヲ製茶セシメ
生ヲ初メ望ノ者ニ賜ヒ又市店ニ得難キ茶種ヲ江戸ヨリ取寄セ
救済ニ備玉入白河山河ノ三毛岩城ノ海濱ヲ走ルノ二十里
ノ魚菜少シ鯉鯉ホヲ堀堀成ノ南湖ニ放シ之上下用ヲ并
セテ木造ヲ造ル者ハアヒ准ル北毛レハ之ヲ抱ラ全成ノ上下

三

享和二年壬戌三月東坡力未詳ニ推ニ三年上支西ノ因ニ
七月既望ハ赤石城ニ三九如戲ノ園亭ニ多其著ニ通詩ヲ
ヲ出テ月ヲ賞セリ十月望ニ柳在府ニ別ニ宴集ノ役ハナシ
リ舞ヲ興テ余諸克傳井上以矩松平定経侍吟ヲ作り文記
ヲカカニ此夜紫野栗山ヲ村社後ニ諸名家集會シ唐詩
元赴由肉玉月白川清ト大ヨシ玉ト大ナリ鄭重ヲ添テ
一坐ニ待テ水ハシテ命セラレテ翌日詩ヲ奉リ又紫野栗山
園田東白
萬壽無疆 里 志 年 梅 花 金 笑 太 平 天 清 明 清 三 津 浪 川 流 雨 共
欣 漫 撫 緒
實 自

上卷下
中卷下
下卷下

二十、提議三：出平當，厚葬也。陳屋之，庶得饒三歲令。

卷六

三
米
公

越後出雲崎邊ハ船着ニテ人気ヨロカラサル地ナリカ
方圓キ國ハ一國兩郡代官ノ手本ナルカ凡俗モ美ニ移ルハ
近江石地出テ上ノカニシテ尽ノ指麾ニ至ト以合其業ヲ務
メ凡俗美ニ移リタルハ後又更ニ三五石ヲ加ヘ九八石長
ノ出所ナリ又凡ノ利ヲ預ル諸侯ノ榮トナル所ニ五ヶ年ヲ期シ治
方圓キハ長ノ預ケフル例ナリトナ

今安房御陣屋ヲ松ケ田トシニ置極一勝等ナリ
上從御陣屋ヲ竹ケ田中置極ヲ幸美山ト云又房
州東濱白子村ハ山ニ遠見望ヲ造リ之ヲ極ケ置
ト事云

府方ハ成番頭久徳ハ
井上ノ市右ヲ以政出酒
ハ大相要地ニ在勤ス
也陣屋ノ成番院ニ成令

海防ノ事ハ昔往來被込ニ在セシ時経屋ニ五
ノミテ已ニ格替シ命セシ見込ニ五ノミカ
ハナク取身アリテ其奉行ハナリ
ニ行ハレ前トシ其任ヲ命セシ玉ヒ

糸ヲ自ラ板ニ各ノ揚ケ置一何日ノ梓覽ノ暫時モ怠ル可ラス
ト命シテ入付文左ノシ
一黒四船百艘明日ハ可来ト毎日存可申事
一兩岸兩家ハ一体ト心得可申事
一上ヲ重シテ下知ヲ指申間敷下ヲイタハリテ聊ノガサツ
叔柄ノ美ホ有マシキ事
一學女出立御厚心掛テ申事
一水練船替古心懸テ申事
一凡俗イカニモ義理厚ク節度ニ可有シ事

文化二年九月

毎年正月十九日、法皇三餅頂戴ノ時、御横目ニテヨミ、河
津駐スル時ハ皆甲冑ニテ出殿ス、安房ノ傳屋ニ松ケ岳上
程ノ方ヨリ在リ、唱ニ世徳ヲ手表サトテ、安房ノ方ヨリ
外郎^{トモ}ナ^{トモ}ナ^{トモ}ト見臺ヲ造リ、シテ梅ケ岳ノ南^{ミナミ}ニ見玉^{ミタマ}
子ハ指板及ニ難キヲアルト願ヒ玉ヒ、同年十月、巡見シテ海
岸巡見ノ時、乃且ハ新領ニテ、墨江^{スエ}ノ旗人住集ナキ地ナリ、農民ノ
勞ヲ感ヒ、人馬ヲ費ス、シテ旗ニ成供ヘ、シテ痛ク省思シ玉ヒ、成
程糧一荷、台替ノ糧、馬ニ駄シ、衣服衣具ハ、内^{うち}掛一荷
ナリ、駄馬ニテ、傳屋ヘ引入ルヘキ、馬ヲ周并^{しり}ラル、成、兩傳屋
ニテ、組頭初二三男迄召シ、海防ノ警書斯勿セニスヘカラストテ、

127

桑ノ示旨ニ至リ舟ニ泊シ、年若キ士ニ舟ヲ漕セ、早船ノ業
 未試ミ玉フ、巡見終リテ归府シテ下ニ、程一層海防ノ備ヲ工夫
 シ、組ハ初番曲垂誨シ玉フ、房後ト相州トハ、對岸ノ備ナレド、
 相州ハ入海ニ、房州ハ大洋ニ、向フ地ナリ、故ニ外田船ノ入来ル所ハ
 先ツ房州ノ沖ナリ、殊ニ忽セナラヌ所ニ、今津ハ大藩ナレハ此房
 州ヲ得玉ハ、飲ルヘキニト世々ヤキトナリ、或有日ノムルニ、相州ハ
 根要地ニモシ、此ニテ防キ渡シナハ、甚キ大事ニサレハ、端ニイ
 ク、ク苦念煩勞アル氏大ニ藩ニ、相州ヲユヅルハキ理ナリトテ、内
 幕府ヘモ其旨趣ヲ申シ玉トシ、以テ度ニ允應ノ及ビ、難キ成
 忠誠ニ至ト云ヘシ、外藩ニ向ヒタル、諸君ノ、臺場、外洋、ハクル河

○當時、海物語ニ近比蝦夷地へ魯船来リ又長岑へ来リシモ皆一
艘ナリ外四船ハイモ一二艘ト侮ルニ大ナル誤ナリ此江戸・港口へ寄
来シト思ハシ數十艘ナリト漂流ノ船ナト、温ス可ラスト宣
ヒシトナリ

岸ニシテ茂ク大砲数挺懸付ト岸ニ喰ム平美山ニ據ル古
城跡ニテ山高キ所ナレド所樹固ニアリテ隱蔽ナリ、
陽陽ノ所ナリ方
ナリ、殊ニ高キ所ナレド大砲多ク備ヘタル所ヘ来ル者ナハカ
ナリ、故カ異國ノ人心ハ洋カナラズ、所ナレド、
新ハナレド是ノ所ナリ
送ナル船、
来ルル六、
許、
シ、
ギ、
ニ、
堀、
ナリ、
内、
ノ、
上、
所、
ニ、
至、
ヒ、
シ、
ト、
ナリ、
或、
時、
ニ、
水、
物、
沿、
ニ、
シ、
テ、
戦、
事、
地、
ノ、
事、
ナリ、
又、
長、
安、
ノ、
来、
リ、
ナリ、
皆、
一、
二、
艘、
ナリ、
外、
國、
船、
ナリ、
ツ、
モ、
一、
二、
艘、
ナリ、
海、
ニ、
ハ、
大、
ナル、
程、
ナリ、
此、
江、
戶、
ノ、
港、
口、
ニ、
至、
来、
ラ、
ン、
ト、
思、
ハ、
ス、
数、
十、
艘、
ナ、
ル、
ハ、
シ、
漂、
流、
ノ、
所、
ナ、
リ、
漂、
ス、
可、
ラ、
ス、
ト、
宣、
ヒ、
シ、
ト、
ナ、
リ、

陽倫此毛
勝峯
勝峯ハ從來漁家網干場ナリニヲ要地ナリトテ墓場ヲ築キ城郭ノ如クニシテ内外ニ馬銃ノ銃ヲ備ヒ遠見番點隙柵ヲメシラシ柵外に樹ヲ植フタニ海岸へ押シミテ社炭ナリ又此の初級社ニ至リ莫府ノ有リ巡見・時・墓場内外ノ備ハ添置ナリニ驚感シヨ府ノ上諸有司ニ語リテ貴款アリシトゾ此地ニテモ白川一帯祭事ノ如シ三月三ニ組ヅ行調甲曹ヲ帶シ行軍ス勝峯九長十三間ヲ始堆土押送船ヲ設ケラル平多山ニ墓場ハ古城跡ニテ位置セヨニ海岸ニ至ニ水面ヲ眼下ニ見下シ午ノ樹間ニ在テ里々聲ナリ毎上ヨリハメニ見ヘズ即倫ハ勝峯ヲトクニ房州東

濱田村と山と梅田、遠見臺、兩宮ヨリ代ル勤番ス。母
 數ヶ所ノ経営、白川ヨリ武藏番籍、運漕家族引移リ
 本其費多カシモ、費多ク、備金ニテ残ル所ナク、玉ヲ
 白川、地廣ケレバ、給テ自ラ野菜ヲ作り、日用ニ供セシガ、此地ハ
 魚菜ニミテ、朝夕ノ食トスベキ者皆買入ル、トナレバ費多クシ
 テ旁迫、由内ヘケレバ、田地ヲ買入レ、給ヘ者ニ配分シテ賜ハリ、又
 御傳屋近キ市人ヲシテ江戸ヨリ日用ノ品ヲ買入レ、運漕ニテ御傳
 屋ノ用ニ供セシメ、此ハ費モ皆賜ハリシニガ、ル御仁惠ノ上、教佳ノ後
 追モ市ニテ尽シモ、隱殿ヨリ御傳屋一口ハ、金ヲ賜ハリタルモア
 リシニ、

此、如、朕、大、政、多、ク、備、タル、所、来、者、ナ、ラ、ハ、イ、カ、ナ、ル、故、カ、異、國、ノ、人、
心、詳、ナ、ス、臣、打、拂、ス、シ、モ、シ、新、水、ヲ、ニ、臣、カ、リ、送、サ、ル、臣、ニ、向、テ、来、ル、
上、許、ス、シ、キ、ハ、得、ト、内、上、國、シ、王、ニ、シ、ト、ン、文、政、初、時、致、仕、後、
有、リ、巡、見、ノ、中、莖、場、内、外、ノ、俗、々、送、重、ナル、ニ、警、感、シ、归、府、ノ、上、諸、有、リ、
ニ、語、リ、テ、賞、歎、アリ、シ、ト、ン、

皇祇近海（東ル等）ニテハ張スル者ハ用心金ヲ賜ハリ家族ハ殘
 レル者ヨリ尋不向テ米錢ヲ給セシメラル故ニ人々顧慮スルナク其事ニ
 後ヒシハ船頭ハ火急ノ用ヲ并ジハ波ヲ恐レズ懸刻自在ナルヲ專一ト
 スルモナシハ浦ノ船頭ハ中殊ニスグレタル者ヲ必抱テウレ其小頭
 ハ人物ヲ授ビ命セラル封内ノ船頭ニハ、尽ク帝ニ手ニ死ヲ賜ヒハ虞ノ
 備トナシ玉フ、

此海防ノ事ハ、執政ニ任シ玉ヒシ時、議シ玉ヒテ己ニ從督シ、命
セウシ、巡見シ玉ヒシガ、程ナク退職シ玉ヒ、其事行ハレガリシモ、此時
ニ至リテ其事行ハレ、首トノ實任ウ命セウシ玉ヒシ、
初文化六年八月、兩年五十二、平生多病ニ在シ玉フヲ以テ、致仕ウ

三三三
陣屋

濱田村ト申し梅田ノ遠見其ノ兩宮ヨリバク勤番ス
如ク数ヶ所ノ経営白川ヨリ山若谷籍ノ運漕家族別移リ
ホ其費多カシモ舊多ク備金ニテ残ル所ナシ并ジ玉フ
白川ノ地廣クババ給メ自ノ所業ヲ作り日用ニ供セシガ此地ハ
魚菜ニミテ朝夕ノ食トスベキ者皆買入ルナリ其費多クシ
テ方由ノ由内ヘケレバ烟地ヲ買入ル給メ者配分シテ賜ハリ又
御陣屋近キ市人ヲシテ江戸ヨリ日用ノ品ヲ買入レ運漕シテ御陣
屋ノ用ニ供セシメ此ノ費モ皆賜ハリシメカル御仁惠ノ上致仕ノ後
迄モ御仁惠ニモ恩徳殿ヨリ御陣屋一戸ハ金ヲ賜ハリタルモア
リシニ

此ノ如ク大坂多ク備タル所ノ末者ナラハイカナル故カ異國ノ人
心ヲ詳ナス所打拂ヘシモ新バカニアカシテ備ニ向テ来
上ノ許スモキ心留メト内ノ上向シモバシトシテ改初時致仕後
有リ巡見ノ中盛場内外ノ備ノ供重ナルニ警感シ御府ノ上諸有リ
ニ侍リテ賞款アリシト

異船近海ヘ来ル等一ニテ其處ニ着ル者ハ用心金ヲ賜ハリ家族ハ残
レル者ヨリ尋ネ向テ米穀ヲ給セシメタル故ニ人々顧慮スルナク其妻ニ
後ニシテ船頭ハ火急ノ用ヲ并シテ波ヲ恐レズ懸刻自在ナルヲ專一ト
スル所ナシバ浦ノ船頭ハ中殊ニスグレタル者ヨリ出抱ラレバ其頭
ハ勿ク誤ビ命セラル封内ノ船頭ニハ忌々帯ニ手ヲ賜ハリ不慮ノ

致仕ノ後迄モ海防ノニ深クノ用并玉ノ異船渡来
ノ趣ヨリテハ臨時ニ漕出シ玉フヘキカヤ水門ノ
内ニ押送ル四艘遊船一艘ヲ轉キ置錠始メ
舟中ニテ密ニ備置セシフ

初文化六年八月丙午五十二平生多病ニ在シ玉フヲ以テ致仕ヲ

一ニテ已ニ終極ノ命
事行ハレガリシモ此時
玉ニシ

元日玉に將軍家上向ニ達シ、未ダ執事ト申スニモ多ク
間養生如出仕成合ニテ在野ノ暇ハ以テ部大補印
可願旨台命ヲ蒙リ玉テ枕政急ニ致仕ヲ止メテ、ア
レ氏、酒席トドニテ、例ハ絶テ無キヲ異ホ、目録ヲ傳
感玉ニ夫

契リ置シ月ト花トニリガフ尼ガハジモヲ君ハ心ニ
此時魔下ノ士付其歌ニ

治ニル御代ノ室ノ梓弓月ヲ君ガ年リナルラン
新同九年四月ニ至リ、再ニ致仕ヲ乞玉ニカバ、具月六日願ハ
リ許サレ、世ヲ終テ歸玉フ、此ハ御歌ニ

又時

メスケナキ世ナラバ、イカニ世ヲステ、コノ果ニ身トハナラナム
又致仕後、大層ノ世ニ掲テ事ヲ言
夫大凡去就ニ上係仕稷安危下係士林瞻表故爲
退數筆、賢才ヲ以テ強乾坤之負擔、善得百年名、所方
能傲以月之金、眞

又致仕後、馬印ノ朱筆トテ授ビ玉フ

致仕後、張田ノ國用印、牛車、持足、地登心

致仕後、築地ノ別邸ニ移リ住セ玉フ、日々御行狀御當所中ニ変リ
ナク、愈々淡泊素ニシテ前倫ヲ首トシ玉フ、九致仕シテ、果樂ヲ心
マニセントスル者世ニ少ナカラハ、ガハ、御志ハソレニ変リテ終リヲ全

クニ玉ヲ賜ハヤシシ蓋謹慎ニ在リ玉ヲ或時御附ノ御用人未例役ヲ
召テ我身不肖ナルニ昔大任ヲ預リテ遇ハル退キ常儀ニ官升リ
テ今京格結構ニ命ズ蒙リ身餘リタル榮光シカニ身持難
ハ慎勤節儉ニシカズヨリテ我未嘗テ痛ク物累ハ空費ナラシ
ミセントスレバソレヨリ者ハ用ル所殘シシ屆キ難ク上御ヨリ
タカニ進呈贈ラレニ物取扱フモノヨリモナリ節儉スレバ下
大衣服ニ至ル一アルベシ彼ホニモヨクハ得サセヨイカニモ空費ナ
周旋スベシト命ザルハ我未嘗テ殘金ヲシテ置キ劣困ノ者ヲ救ヒ
醫師ニラシ製藥料セシメ又山藥通ホ修行料ニモ賜ヒナリ
後文政六年保國公伊勢桑名ハ在得齊 台年ヲ蒙リ主ト事ニ

ノ恩ヲ蒙ラレ時ナニ使出ニ添テ願玉ヒシカニ國家ノ一財トシテナ
ラハト御心ヲ尽シ玉フ此度ハ入費許多ナリ一際節儉ヲ命セテナリ
法徳殿 所ニ至ニ 法財減少ナカリニニカクハ有テニキトテ是等御進
セラシ様者累スヘキ昔年セナリ

一、書、史、文、天、地、人、物、事、理、一、明、十、



アキヲ

御歳後二十四ノ時実父修然ニ別一王に御兄治察卿ニ父如シ

中順ニ事ハ老女愛舞ニ厚ニ十六歳ニシテ台係ヨリ御養子トカ

リ王ニシカ成程ナシシ治察卿世ヲ甲ノ王ニ世嗣モ未モ家ニス実
蓮夫人ヲ始上下ノ教ナカラスニ重臣等々テ謀後ニシテ

経書ニ云ニリ

○